

市区町村名	京都府福知山市	担当部署	市民総務部 保険年金課
		電話番号	0773-24-7015
		所属メール	hoken@fukuchiyama.city.lg.jp

1 取組事例名

国民健康保険高額療養費支給申請手続きの簡素化

2 取組期間

令和6年4月～（令和6年1月診療分～）

3 取組概要

医療費が高額になった場合に給付を受けられる高額療養費制度において、従来は申請書、請求書、医療機関からの領収書のコピーが必要であったが、手続きの簡素化（自動振込）申請書1枚を提出することで、令和6年1月診療以降にかかる高額療養費を自動で振り込むように改善。事務処理方法も見直し、担当者が手計算し、システムに手入力していたものを、医療費データを使ってRPAで自動入力。

4 背景・目的

【従来の申請・支給方法】

市民：1ヶ月単位のため毎月申請が必要。記入箇所が多い。領収書を紛失した場合再発行が必要、または支給額が減る。

職員：窓口対応時間が長い（申請書の記入、領収書のコピー）。毎月、申請勧奨の通知を送付しているが、直後に申請が集中する。書類が多く保管場所も限られている。支給計算の際は、医療機関ごとに診療報酬明細（レセプト）と領収書を突合して計算し、ダブルチェック後にシステムに一件ずつ入力。

令和5年度 支給実績 3,588件（1,142世帯） 申請勧奨通知 3,857通送付

市民・職員ともにかかる窓口での負担と、書類の削減、事務担当職員の負担を減らしたい、というところから取り組みをスタート。

5 取組の具体的内容

1 請求書の廃止

本市では財務規則で支出負担行為時に必要な書類として「負担義務を確認できる書類、請求書」と記載されていた。自動振込をする際に請求書を取ることは不可能。

→財務担当課等と調整し、財務規則の請求書の記載を削除し、支出負担行為時に必要な書類を「負担義務及び金額を確認できる書類」に変更。

2 要綱の制定

簡素化の対象世帯や同意事項を決める。本市では保険料に滞納があった場合は高額療養費支給額を滞納保険料へ充当することを同意事項とし、滞納の解消にも努めた。

3 事務改善

窓口では初回時に申請書1枚のみの記入。申請があった人には申請勧奨通知は送らない。申請あったものをリスト化。支給時は提供される医療費データ（高額療養費支給額等）をもとに自動振込用のリストを作成。振込時には支給決定通知で金額と振込日を通知。

6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

RPA でシステムに自動入力することで、大幅に事務時間を削減。

これにより今まではシステムの使い方がわかっている職員しかシステムに入力ができなかったが、リストがあればワンクリックで事務が完結する。

7 取組の効果・費用

費用はなし。（使用したシステムはすでに導入済み）

現状 第1回目の支給（6月）時の支給見込み 従来申請 130件 簡素化申請 180件→簡素化率（58%）
令和5年度支給件数 3,588件（1,142世帯）
令和5年度実績をもとに現状の簡素化率で簡素化の支給件数等を計算すると
 $3,588 \text{ 件} \times 58\% = 2,081 \text{ 件}$ 簡素化 1,507件 従来申請

【効果】

- ・書類
申請書 最低3枚×件数 3,588=10,764枚 → 申請に1枚×支給人数 1,142=1,142 9,622枚削減
計算用レセプト 1申請平均3枚×件数 2,081=6,243枚削減
- ・窓口対応時間
対応時間（1回10分）×支給件数 3,588=698時間 → 簡素化 2,081件×10分=346時間削減
- ・事務作業
計算・ダブルチェック・システム入力時間（1件あたり15分）×件数 3,588件=897時間
→ 簡素化 2,081件×15=520時間削減

この他にも簡素化申請によって申請勧奨通知の枚数も減る。
簡素化の受付を本格的に開始してから2か月で簡素化率58%なので、今後もう少し増加する見込み。
さらなる効果が見込まれる。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

・実務方法の確立

要綱を作成し方針が決まった後、実際にどうやってデータを扱っていくか、今後マニュアル化していく中で誰でもできる方法を模索した。

申請者リストの作成は、申請書の内容を LoGo フォームに入力することで自動でリスト化し、システムへの入力には RPA を使用して自動入力など誰でも扱えることを意識した。

9 今後の予定・構想

支給時の RPA 用リストの作成を、Excel マクロ等を使って簡単に作成できよう改善。さらなる属人化の解消を目指す。

10 他団体へのアドバイス

属人化の解消はどの団体もどの業務でも課題となっていることだと思います。簡単なシステムや簡単な改善で可能となることもあると思うので、課題に取り組んでみるのが重要だと思います。

11 取組について記載したホームページ

なし